



華道の普及・発展

すぎ むら げつ こう
杉 村 月 郊

(本名 すぎ むら みち こ 杉村道子)

(88歳)

住 所 秋田市

大正9年創流の松生派を、昭和44年に二世杉村月郊として継承襲名し、流の発展に努めたほか、秋田県華道連盟副会長、参与を歴任し、長年にわたり本県いけばな界の中枢として、後進の指導育成に貢献した。

平成6年の全日本いけばな作家展では運営委員を務め、平成10年の全国いけばな名流展においては副実行委員長を務めるなど、本県での開催運営に携わるとともに、第29回国民文化祭・あきた2014では、「華道フェスティバル」の成功に大きく貢献し、本県でのいけばな文化の普及に努めた。

日本いけばな作家協会展、秋田県華道連盟展、秋田県いけばな作家協会展に、毎年作品を出品しているなど、現在も活躍を続けている。



美術教育の振興・発展

さ さ き りょう ぞう
佐々木 良 三

(81歳)

住 所 秋田市

秋田大学名誉教授、県内外の美術展審査員などの立場から、若手画家や学生の指導に尽力し、小中学校、高校の美術教師、大学教授、美術館館長など、美術文化を担う、数多くの人材の育成に尽力した。

秋田国画会会長として、日本の団体展の改革に力を注いだほか、秋田県造形美術家協会顧問として、絵画部門のほか、彫刻、工芸など、他部門の発展にも尽力し、本県の芸術文化の向上に大きく貢献した。

毎年、大作絵画の制作に励み、数多くの絵画を発表しており、昭和51年サルバドル・ダリの審査による「第一回スペイン美術賞展」で優秀賞、翌年の「第一回イタリア美術賞展」でも優秀賞を受賞するなど、その作品は高い評価を得ている。



俳句の普及・発展

む とう しょう じ
武 藤 鉦 二

(本名 武藤昭治)

(80歳)

住 所 能代市

昭和30年、西東三鬼主宰の俳誌「断崖」に入会したことにより、本格的に俳句の道を志し、以後60年以上にわたり、秋田のよさを掘り起こしながら、俳句の余韻、余情と韻律を生かした風土俳句の発表に精進している。

白神山地全国大会、現代俳句全国大会など、多数の大会で選者を務め、秋田県現代俳句協会会長として指導力を発揮しているほか、平成9年に「しらかみ句会」を設立し、後進の指導に尽力するなど、俳句の普及、発展に貢献した。

秋田県俳句懇話会、秋田県現代俳句協会の作家賞など、数々の賞を多数受賞しており、作品が県内外で高く評価されている。



染織の普及・発展

はやし きよ え
林 清 江

(79歳)

住 所 秋田市

40年以上にわたり、染織作品の制作・発表活動を行うとともに、工芸についての啓蒙、普及に尽力したほか、秋田県工芸家協会副会長、理事を歴任し、本県工芸界の発展、後進の指導育成に貢献した。

植物や鉱物等の染色材料から、独自染料の抽出について研究を行うなど、染織技術の向上に努めるとともに、各種展覧会に積極的に出展し、日本現代工芸美術展、日展において、複数回入選するなど、全国的にも高い評価を得ている。

平成12年には、日展入選作である、秋田杉をイメージした織物作品「聖音」が、平成20年度より、高校「現代国語」の教科書の表紙に採用され、本県のイメージアップに大きく貢献した。



スポーツの振興・発展

すず き よう いち
鈴 木 洋 一

(72歳)

住 所 大館市

秋田県トランポリン協会会長、秋田県ソフトテニス連盟会長、秋田県スキー連盟会長を歴任し、自ら実践しながら、競技への理解とスポーツの楽しさを再認識させ、生涯スポーツとして継続することの重要性を紹介するなど、本県のスポーツ振興に貢献した。

秋田県スキー連盟会長として、県内選手の技術力向上に努め、数々のオリンピックを輩出したほか、国民体育大会冬季大会スキー競技会では、第65回大会から第69回大会まで、皇后杯5連覇の偉業を成し遂げた。

全日本スキー連盟会長就任以降も、本県選手の品格と競技力向上に努めたほか、国際スキー連盟主催のフリースタイル・モーグルスキー・ワールドカップの本県招致に尽力し、本県初となるスキー世界大会を成功させた。

秋田県体育協会理事、副会長として、平成19年秋田わか杉国体の成功と、天皇杯、皇后杯の獲得に尽力した。



地域産業の振興・発展

おく やま かず ひこ
奥 山 和 彦

(71歳)

住 所 横手市

横手商工会議所会頭として、コミュニティFM局「横手かまくらFM」の開業、横手コンベンション協会の設立、地域のITスキル向上と次世代の人材育成を目指す「ITエースをねらえ！プロジェクト」などを実施し、地域商工業の発展に寄与した。

平成13年には、横手市観光協会において初めての民間出身会長として就任し、かまくら、ぼんでんを中心とした「横手の雪まつり」や「横手の送り盆まつり」において、県内外への発信力を高め、観光客の増加を果たすなど、観光事業について様々な改革を行い、生産性の高い観光業を実現させたほか、市町村合併後の横手市観光連盟の初代会長として、横手市全域の観光振興を積極的に推進することで、地域の活性化に献身的に取り組んでいる。



保健医療の向上

おやまだ たすく
小山田 雍

(70歳)

住 所 大仙市

秋田県医師会常任理事、会長を歴任し、秋田県の保健医療福祉に尽力した。

新型インフルエンザ発生時には、即座に対策本部を設置し、県内の病院、診療所医師による全員総参加体制を構築し、県民の健康確保に努めたほか、東日本大震災発生時には、医療救護体制を整え、迅速な救護活動を推進した。

また、医療連携ネットワークシステムの構築による、診療所と病院の情報共有を推進するなど、本県の医療環境整備の推進に大きく貢献した。

秋田県学校保健連合会会長として、県内における学校保健の推進に取り組むとともに、秋田県総合保健事業団副理事長として、健診、検査事業の改善を図り、県民の健康及び福祉向上に寄与した。



食生活改善の推進

故 ^さ佐 ^{とう}藤 ^き喜 ^み美 ^こ子

(享年87歳)

住 所 湯沢市

長年にわたり、食生活改善推進員として、単なる奉仕活動ではなく、自身の知識を地域住民の健康づくりのために還元するという精神のもと、幼児から高齢者まで、そのライフステージに応じた、様々な講習会における企画運営の中心的役割を果たし、本県の減塩推進事業の実働部隊として、地域での普及活動に尽力した。

平成13年に秋田県食生活改善推進協議会会長に就任してからは、これまで関わりのなかった歯科保健事業や農政主体であった食育推進事業との連携に努め、ボランティア活動の場を拡充するなど、食生活改善の発展に貢献した。

卓越した指導力と行動力は特に優れており、食生活改善推進員として、率先して、伝達講習のボランティア活動の第一線で活動し、悩める推進員に対しては適切に助言を行うなど、後進の育成に貢献した。